

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

レバノン：新内閣編成

15日、レバノンでタマーム・サラームを首班とする、新内閣の陣容が以下の通り決定した。

首相：タマーム・サラーム 大統領・首相・ジュンブラート枠

副首相兼国防相：サミール・ムクビル 大統領・首相・ジュンブラート枠

公共事業・運輸相：ガージー・ムハンマド・ズアイティル 3月8日勢力枠（アマル）

水・エネルギー相：アルトゥール・ナザリヤーン 3月8日勢力枠（ターシュナーク党）

財務相：アリー・ハサン・ハリール 3月8日勢力枠（アマル）

環境相：ムハンマド・アブドッラー・マシュヌーク 大統領・首相・ジュンブラート枠

労働相：サジュアーン・カジー 3月14日勢力枠（カタール党）

教育相：イリヤーズ・ブー・サアブ 3月8日勢力枠

経済・貿易相：アラン・ハキーム 大統領・首相・ジュンブラート枠

文化相：レイモーン・アリージー 3月8日勢力枠（マラダ潮流）

社会問題相：ラシード・ダルバース 3月14日勢力枠

工業相：フサイン・アリー・ハーッジ・ハサン 3月8日勢力枠（ヒズブッラー）

移民相：アリス・シャブティニー 大統領・首相・ジュンブラート枠

通信相：ブトルス・ジョセフ・フリー・ハルブ 3月14日勢力枠

農業相：アクラム・フサイン・シャヒーブ 大統領・首相・ジュンブラート枠

保健相：ワーイル・ワフビー・アブー・ファーウール 大統領・首相・ジュンブラート枠

情報相：ラムジー・ジュライジュ 3月14日勢力枠

内相：ヌハード・サーリフ・マシュヌーク 3月14日勢力枠（ムスタクバル）

国務相（国会担当）：ムハンマド・フナイシュ 3月8日勢力枠（ヒズブッラー）

外相：ジュブラーン・バーシール 3月8日勢力枠

観光相：ミシェル・ファラオン 3月14日勢力枠

国務相（行政改革担当）：ナビール・ドゥ・フライジュ 3月14日勢力枠（ムスタクバル）

青年・スポーツ相：アブドゥルムッターリブ・ハナーウィー 大統領・首相・ジュンブラート枠

法相：アシュラフ・リーフィー 3月14日勢力枠

この組閣は、2013年3月にミーカーティー内閣が総辞職を表明して以来、11カ月に渡り政治対立により人事が停滞していた末のものである。首相を含む24名の閣僚は、ハリリー元首相が率いる「3月14日勢力」、ヒズブッラー、アマル、ミシェル・アウン将軍派などからなる「3月8日勢力」、大統領・首相・ジュンブラート派の3つの集団から8名ずつ選出された。

これが意味するのは、いずれの政治連合も単独で重要な決定事項に必要な 3 分の 2 を上回る多数派の形成を阻止できるということである。すなわち、各政治連合がこのまま団結を保つならば、諸勢力間で全会一致に近い合意を形成しない限り、内閣として何の決定もできないということである。

2005 年のラフィーク・ハリリー暗殺以来、レバノン政界の対立軸や連合の結集軸は、「3 月 14 日勢力」と「3 月 8 日勢力」に収斂していた。両派は、互いに相手方が 3 分の 2 を超える多数派を形成するのを阻止し、意思決定の「拒否権」を持つことにより、政治の主導権を争ってきた。しかし、実質的に「何も決まらない」政治情勢の弊害が顕在化しており、2013 年に行われる予定だった国会議員選挙は先送りされ、2014 年秋に任期が切れる予定の大統領の処遇についての協議も進んでいない。サラーム内閣は、このような政治情勢を受け、各政治勢力間の均衡を維持することを目的とし、「何も決めない」ことを任務とする内閣といえるだろう。

(高岡 豊)